

収録・解説 酒井董美

語り手 山口忠光さん
(明治40年生まれ)

昭和63年8月23日収録

あらすじ

昔、寺に和尚と小僧がいた。

門前のおばさんが洗濯した中に和尚さんのものが入っていた。「その洗濯物はおっさんのかいな」「おっさんが汚れたのを着ていたから洗濯してあげた」

小僧がにやにや笑いだした。「何がおかしい」「何だか笑いたくなかった」「小僧さん、言いなはれ」「おばさんが怒るから言わん」「絶対怒らんから、言いなれ」

「なり、言っけど、おっさんは『おばさんは、気だてもええし、文句の

和尚を戒める

(東伯郡三朝町大谷)



イラスト・福本隆男

おばさんと和尚の仲裂く

小僧は寺にもどって和門前のおばさんは『おっさい』という名にしてほ尚の前に出て、またにやさんはええ人だけど、鼻にや笑いだいた。「何がの頭が真っ赤なのがきずおかしい」。それでもにだ』って言いなはった」ここに笑っている。「ああ、そうか」

「話せや」と和尚が言「せいから、和尚さんばさんが、和尚の洗濯物」

「と臭い』って言いなはった。小僧は「話したらにも名前があるやに、お小僧の差し金でおばさん」が「おっさんはええ男」だけど鼻の頭が赤いのが「難だ」と言ったことを聞いていたから、和尚は衣の袖で鼻の元を隠しながら「おばさんが来たけえ、くさい、お茶あ出せ」と小僧を呼んだ。

解説

この「小僧の作戦」の話は笑い話に属するもので、関敬吾博士の『日本昔話大成』の「巧智譚」

おばさんが和尚を見るの「和尚と小僧」の「鼻と、鼻の頭を衣で押さえて大きい」の中に、きちているし、「くさい」て僧が女には和尚は口が大きいのやらと思った。きいと、和尚には女が鼻それで「おっさん、長が大きいと言ったと告げい間、かわいがってもらる。ふたりが会ったときったけど、衣を当てがわには女は口を、和尚は鼻にやあならんほど臭けりを押さえる」。山口さんや、もつ来りやせん。洗の話も、この仲間に入る濯もんはここへ置いたけのである。え」と怒って帰ってしまった。(元鳥取短期大学教授)(水曜日に掲載)